

# 東京聖栄大学第4期生学位記授与式



三月二十日に学位記授与式がわたなべ記念館において挙行されました。第四期生二七名が聖栄会に入会されました。心からお祝い申し上げます。

# 聖栄会だより

発行 東京聖栄大学同窓会  
聖栄会  
編集 東京聖栄大学  
聖栄会本部事務局  
〒124-8530  
東京都葛飾区西新小岩1-4-6  
TEL 03-3692-0211 (代)  
<http://www.tsc-05.ac.jp/seieikai/index.html>

## ごあいさつ



聖栄会会長  
荻野 薫子

昨年、平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災は、日本における未曾有の大災害となつて、東日本に甚大な被害をもたらしました。被害にあわれた方々や関係者の皆様に、あらためて、心よりご冥福とお見舞い申し上げます。

福島第一原発は、日本で初めての非常事態となりました。日本の原子力は五十四基あるとのこと。「原子炉圧力容器が劣化している公算が大きい」という。四十年といわず、三十年の原発も即廃炉すべきだ」という声に、「配管も炉内の構造物も傷んだら交換すればよい、寿命は延ばせる」と、原子力安全保安院の答へに、「脱原発」「脱原発依存」の立場を超えて、再稼動を認めて大丈夫かと、意見は一致していると聞く。世界の中で日本が今、「発電も核燃料のリサイクルもやめた」と言えない事情があるのは、使用済み燃料に含まれるプルトニウムは、核兵器の材料になるから。燃料として使い切ることが望ましいと言っても、使用済み核燃料の最終処



分地が決まらずに問題となつていきます。問題の土壌のセシウムは半減期が二年と三十年のものが二対一の比で存在することが判明し、その結果セシウムは十年後までは大幅に下がり、その五年後は六割、十年で七割、三十年で八十五%減少することになると、第一原発から半径一〇〇キロ圏内の土壌調査の結果で算出されました。原発から西約二キロ地点が約マイクログラムレベルに下がる年数は、二六年にもなるとのことです。民家の敷地、山谷を大規模に削るという徹底除染には、兆数億円かかりという。私達にとっては、除染していただく外はない。ドイツの脱原発の決定は正しかったと聞く。福島の事故から四ヵ月後、十七基ある全原発を、昨年は一気に八基を停止したが、発電も起さず。風力発電が増え、電力を輸出に回す余力さえ生れたとのこと。風力発電、太陽光発電、地熱発電等の自然エネルギーを、着実に国をあげて伸ばして欲しいと願っています。

この一年で震度一以上の地震は一万回以上、過去十年は毎年二〇〇―二三〇〇回程

## ご挨拶



聖栄会顧問  
学長  
福澤美喜男

東日本大震災から一年が経ちました。被災された方々には衷心よりお見舞いを申し上げます。恒例にならぬ最近の大学のニュースを紹介いたします。

まず、昨年度の管理栄養士国家試験の合格率が希望の八〇%台を超えました。開学以来低迷が続いていた合格率も管理栄養学科の諸先生方と「国試対策室(責任者、福山君子・専門八期生)」のきめ細かい受験生に対する指導の結果だと考えております。また、本年度の就職状況は不況の影響で厳しいですが、就職率は学生支援センターおよび諸先生方のご尽力で両学科とも、昨年並みかやや劣る程度になると予想

度でした。震災前はM6以上が年平均十九回だったのに、余震だけで九十七回もあり、なおM7級の余震の恐れもあるとのこと。昨年九月現在で、首都圏でM7級の地震が起きる確率は四年以内に七十%と推計されましたが、現時点ではもう少し低いとのこと。何時起こるかわからない巨大地震の用心に心がけましょう。

三月二十日に東京聖栄大学第四期二七名の皆様のご卒業を、聖栄会会員としてお迎えすることができ、心よりお喜びを申し上げます。卒業生の皆様には、卒業式予行にお目にかかりご挨拶申し上げます。人との和を大切に、学び舎で得た友を、生の友としてください。社会貢献度の高い教育を身に付けられ、未来への希望は大ですが、一任職が多い中、自分で考え行動する力と、他者と協力する力を持った人になつて下さい。その中で悩まれたら「聖栄会」へ、母校と社会で得た、豊富な経験と知識を持つた会です。是非事務局までご連絡くださいと申し上げます。

卒業式での学長先生の式辞では、この不況の中、就職率は八十五%―九十五%になるとのことでした。校訓の「熱意」「誠意」「創意」の三意の意味をもう一度思い起こして欲しい。一生懸命に仕事をし、周りの人と仲良くすること。やる気を持つこと。人生には山や谷がある。部下には適切な指導ができるよう、指導力を身に付ける努力をして花を咲かせるよう、健康に注意し励むようお願いいたします。

ご来賓祝辞では、社会は大変な状況にあるが、人生をしっかりと歩んで欲しいとの言葉が寄せられました。この震災で高田松原の松が一本だけ残りました。震災を受けた小学生在が、自分は地域の人が温かく見守ってくれたから、生き残ったのだと話されたそうしております。

話は変わりますが、大学は七年間に一度第三者による認証評価を受けた義務があり、本学も昨年七月目を迎えたので、十月初旬に日本高等教育評価機構による第三者評価を受審しました。正式な結果はわかりませんが、不合格にはならないと思っております。昨年申しあげましたが、文科省は大学の教育研究施設拡充資金として外部からの募金を推奨しております。本学もこの趣旨に則って一般からの寄付をお願いしておりますが、昨年から卒業生の皆様にもお願いし、多くの方々から賛同頂いております。この募金は五ヵ年計画であり、全会員にお願いする計画になっておりますので是非ともご協力のほどお願い申し上げます。なお、募金の金額が一口五万円と二口以上で、協力的に一口五万円、卒業生には一口二万円か三万円にしてほしいとの申し出がありましたので、無理のない範囲で、より多くの会員が募金活動にご協力くださることをお願いいたします。この寄付金は確定申告の時に寄付金控除の対象になることを申し添えます。

です。皆さんにも地域の人、先生、親、友人が居ます。頑張ってください。後援会会長さんは、挨拶をきちんとすることは、私はあなたの味方ですよという意味とのこと。努力して心に余裕をもち、一日気持よくやるぞという心がけが大切ですよ。また、一日の段取りは、仕事の難しいことから始めるとよいと、経験を基に話されました。

今年も五月に体育祭が開催されます。聖栄会からの「会長賞」と「チームワーク賞」の贈呈は三回目になりました。今年度の贈呈は「会長賞」と「チームワーク賞」の贈呈は三回目になりました。今年度の贈呈は「会長賞」と「チームワーク賞」の贈呈は三回目になりました。今年度の贈呈は「会長賞」と「チームワーク賞」の贈呈は三回目になりました。

第二十三回食文化研究会は、昨年十月二日にバスターハウス・AWキッチンで行われました。厳選された旬の野菜のオブジェ盛をフオンジュ形式で堪能してきました。第二十四回食文化研究会は、九月三十日(日)如水会館において開催いたします。東京會館伝統の最高のフランス料理をシェフのお話を伺い研修いたします。

今年の聖栄会総会は十一月三日(四)日です。学生会主催の餅つき大会に協賛、またお茶席を設けて、皆様のお越しをお待ちしております。

教育研究施設設備拡充資金の募金も引き続きよろしくお願いいたします。今年から募金の条件が改正され、コンスタントに毎年、一〇〇名以上の皆様からのご寄付をお願いいたします。

以前から聖栄会(大学祭)の最後を飾るチャリティ餅つき大会に聖栄会からご寄付を頂いておりますが、一昨年から五月の学友会主催の体育祭にも聖栄会から優勝チーム(クラス)に会長賞と参加賞の最もよかつたクラスにチームワーク賞が贈られ、閉会式に華を添えていただいております。近年は同窓会に入会したくないという学生がおり、各大学とも将来会員になる学生にいろいろな場面で同窓会の存在を知らせることをしていますので、同窓会をアピールするよい企画だと思っております。今年の入学状況ですが、両学科ともに定員を満たしています。例年定員割れの食品学科は実学志向の影響で入学する学生が増えたと考えております。なお、食品学科のフードサイエンスコースでは、新たな資格として「食品微生物検査技士」の受験資格が取得できるようになりました。管理栄養学科では栄養教諭の養成を考えております。以上が学内の動きですが、同窓生の皆様には、お近くにお越しの際は是非大学を訪れて、近況を教えてください。聖栄会会員の益々のご活躍をご祈念申し上げてご挨拶いたします。



# 平成二十三年定期総会開催

平成二十三年定期聖栄会総会が六月五日（日）、東京聖栄大学において開催されました。  
 永野氏（短大三期）と桜井氏（専門六期）が議長に選出され、議事に入りました。

荻野会長（専門二期）より次のような挨拶がありました。  
 「三月十一日の東日本大震災は皆様、大丈夫だったでしょうか？未曾有の大震災で被害に遭われた方には、ご冥福とお見舞いを申し上げます。大学では、卒業式を延期し、学位記授与式を三月二十二日に内輪で行いました。新会員百四十名を迎えました。卒業生が少なくなった現状をふまえ会費徴収制度を改定するため、会則を改正しました。十年会費とし、在学生、卒業生からも会費を徴収することにしました。」  
 引き続き報告、議事と進行されました。



- 期）から平成二十二年会計報告があり、会員の拍手を以て承認されました。続いて二十三年度事業計画案と予算案が提出され、それぞれ承認されました。
- 役員改正に伴い、新役員が選出されました。
- 会長 荻野 薫子（専門2期）
  - 副会長 永野 幸枝（短大3期）
  - 高橋 興亜（専門7期）
  - 総務 荒木 裕子（短大9期）
  - 飯田真由美（短大37期）
  - 立川 知子（短大3期）
  - 内堀 恵子（専門9期）
  - 青野 友美（大学1期）
  - 山本 浩作（大学1期）
  - 浦野 史子（短大11期）
  - 会計 浦野 史子（短大11期）
  - 監査 哥 亜紀（短大39期）
  - 牛沢 良美（短大27期）
  - 吉田真知子（短大38期）
  - 川島 早苗（短大9期）
  - 山内なつき（大学3期）
  - 書記 山内なつき（大学3期）

総会は終了し、引き続き懇親会が行われました。



# 第二十三回 食文化研究会開催される

今回の食文化研究会は、港区白金高輪にあるイタリア料理のAWキッ チン・ラ・プラーディーナで開催されました。駅から数分のビル一階にあり、オーナーシェフの「パスタで元気に」「パスタでハッピー」をモットーに作られたパスタと新鮮野菜が自慢のお店です。野菜は全国の契約農家の畑から厳選された旬のものが使われていました。参加者の皆さんからは、旬の野菜が生け花のように盛り込まれたパーニャカウダは絶品と大変好評でした。  
 パスタの達人の用意するメニューは、どれもたつぷりの新鮮野菜が組み合わされて、季節感溢れる美味しなお料理でした。また、めずらしいお野菜も使われており、オーナーからは丁寧な説明をしていただきました。落ち着いた雰囲気の中で、ゆっくりにとお食事ができ、どの料理も目と舌を楽しませてくれるものでした。



# 平成二十四年度 定期総会開催のご案内

平成二十四年度の定期総会ならびに懇親会を左記の通り開催いたします。

- 日 時 六月三日（日）
- 定期総会 十一時から  
 懇親会 十二時三十分から
- 会 場 総 会 東京聖栄大学別館四階会議室  
 懇親会 多目的ホール
- ◎懇親会費 一〇〇〇円

# 第二十四回 食文化研究会開催のご案内

食文化研究会も第二十四回を迎えます。今回は東京會館伝統のフランス料理の研修です。会場は皇居周辺の緑も美しい如水会館です。如水会館は都心とは思えない落ち着いた雰囲気とぬくもりのある雰囲気を持ち、その料理の美味しさは舌のこえた多くの文人たちから轟然とされています。食文化研究会では、東京會館伝統のフランス料理を庭園の緑を窓越しに眺められるけやきの間で味わっていただきます。なお、お料理のメニューは食文化研究会のために考案されたもので、今回は特別に森田信夫総務課長の解説付きでお食事を楽しんでいただきます。フランス料理の素晴らしさを多くの方に堪能していただきたく、左記の通りご案内いたします。皆様のご参加お待ちしております。

記

- 日 時 九月三十日（日）十二時から
- 会 場 如水会館 三階けやきの間  
 東京都千代田区一橋二一―
- 参加費 六〇〇〇円
- 募集定員 三十名

集合場所 如水会館 三階 十一時四十五分にご集合ください。  
 ご参加ご希望の方は東京聖栄大学食品学第二研究室・荒木か総務課飯田までお申し込みください。

電話 〇三―三六九二―〇二一（内線六〇五）

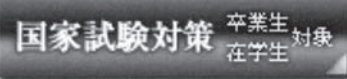
参加者の皆様には詳しい案内を送付させていただきます。

幹事 短大九期 荒木

# 管理栄養士 国家試験にチャレンジしている皆様へ

卒業生の国家試験対策を実施しています。  
 ホームページで卒業生用国試対策を開始しました。  
 管理栄養士国家試験に合格するために模擬試験を受験したい方はどうぞ!!

<http://www.tsc-05.ac.jp/>



↑ここから入れます。



# 同窓生通信

## 母校を思う長い年月



高橋 興一  
専門七期

今年の一月に古希(七十歳)を迎え、これからのように生きるのか、自分と向き合い考える節目の年になりました。振り返りますと、昭和三十五年の春に高校を卒業し、郷里の北海道から東京に出て、聖徳栄養専門学校に入学した当時は、期待と不安で胸が一杯だったことが思い出されます。なぜ、栄養士を志したのかと問われても、特別な思いがあったわけではなく、大学進学の道が絶たれたことを不憫に思った父の勧めに従っただけの不純な動機でした。ただ嬉しかったのは、担任の先生からも勧められたことを父に告げると「経済的に苦しいけれど、そのことは心配しないで東京で勉強しなさい」と両親からの返事をもらったことです。

入学が決定的大都会を夢見て上京しましたが、新小岩は想像とは随分と違い木造建築が多く高層建築は少なく、心落ちしたような記憶があります。入学当時の学校は、現在の大学の姿とは違い、門に入ると左側が栄養学校、右手の手前に事務所、その先がフアッション校でした。その裏手の細い通りに面して、手前が女子寮(橘寮)、その並びの奥に私が入寮していた男子寮(菊華寮)があり、今でも数々の思い出が蘇ってくる場所です。当初はすぐに寮生と親しくなれないために、毎晩床に就くと郷里を思いホームシックに陥ることもしばしばありました。一方、学園生活は楽しいことばかりで(辛いのは

## 人生の転換期に栄養士の資格が生きました



短大十二期  
伊藤 一美  
(旧姓 高橋)

それは三十三歳、主人の事業の失敗により子供たちも手がからなくなっていた為、さあ就職といった時、運良く地元企業に誘致により製菓製造会社(お菓子工場)ができました。大学卒業後、就職もせず結婚し職歴が殆ど無い上、高校が商業科だったので、事務員としての職種を希望して面接に臨みま

した。ところが履歴書に栄養士の記載があったので、「お菓子は好きですか」と聞かれ「はい」と答えました。そして採用された配属部署は商品開発のオリジナル商品の開発・品質管理・工場内衛生管理と全て初めての仕事でした。学生の時は勉強より遊びを優先していた自分でしたが、今の仕事に就いてからは、勉強しましたね。でも、毎日が楽しかったです。常に、他社と同じものを考えては何も始まらない。他社製品とは違う何かを、そして夢があったておもしろいお菓子。もちろん工場ラインに見合う(利益を生む)ものを考え続けました。あのときクライアントから「お菓子の家」の企画の依頼が入りました。社名の「ヘクセンハウス」はお菓子の家の意味の由来もあり、その企画は頑張ってプレゼンして通ることができました。苦勞もありましたが、こうしてもう十年以上にもなります。

クリスマスはケーキを囲んでのパーティーではなく、みんなでお菓子の家を組み立てて、きずな作りが好まれるようになってきましたね。

また、気持ちを伝えるお菓子として、クッキーにアイシングを施した「デコラティブクッキー」についても人気が上がりましたが、数年前から東京でも需要が増えておりネットでのアクセスも多く注文が入ってきま

す。伝わるもの、ハンドメイド性のあるお菓子をお客様は求められていると今の流通の傾向を感じます。(株)ヘクセンハウスは小さな会社ではありますが、この業界でもかなり熟知されるようになり、メジャーな企業からもオファーがかかるようになりました。また近年では、母校の東京聖栄大学からインターンシップの学生を受け入れ、後輩の育成に協力する余裕も出てきました。今思うと、就職の入り口では資格でも入社したら自分の頑張りや人生が開けていくのだと、この年齢になり感じます。やっぱり聖徳で学んで良かったなと思います。これからの学力優位だけではなく、自分の意志をしっかり貫ける学生の育成に期待して、今後の聖栄会の活動に協力させていただきます。思っております。

## 母校を巣立って



大学二期  
清水 香保里

東京聖栄大学を卒業し、気づけばもう二年目を迎えております。

学生のころ、社会人になると時間が過ぎるのはあっという間、とは聞いておりましたが、まさかこれほどとは、とあまりの時間の流れの差に、充実した社会人生活を築む一方で、大学生活ののんびりした日々を懐か

しく感じるときも多々ございます。ここを卒業し就職していく方は栄養士や食品衛生監視員など、大学で取れる資格を基にした就職先がほとんどかと思いますが、私の場合は若干異なり、百貨店、伊勢丹新宿店のグランドカーヴというワイン・洋酒売り場にて勤務をしております。

一見この売り場では大学で学んだことがあまり活かされないのではな

いかと考える方もいらっしゃるかもしれませんが(現に私自身そう思っております)むしろ逆です。百貨店にご来店されるお客さまは「安心・安全」を求めている方が多く、それはつまり販売員の知識が伴っていること、食の知識を多岐にわたる把握していることにつながってきます。昨今の震災に始まり、放射能の問題があがってからはさらには高ま

という事です。いくら休みがあるとはいえ(弊社は雇用形態にもよりますが一週間ほどの希望休を頂戴することが出来ます)学生ほどの長期休みがあるとはいえないですね。自ら関心のあること、もつと深掘りしたいと思ったことは実行する、日常疑問に思ったこと(記載されている成分

が食品の味や体内にどんな影響を与えているのか等)は質問してみるなど、経験と知識を身につけることで

どんどん自分の中にある可能性を広げていければ、もつと違った見方で今の仕事を楽しめるのではと思うこともあります。とは言え、他のどの大学にもないような素晴らしい教授や助手の方、年間クラス制というアットホームさ、この大学にしかない魅力や十分

## ◆聖栄高師祭のご案内

本年も聖栄高師祭が母校で開催されます。皆様お揃いでお出かけください。聖栄会では別館四階の会場でお茶席を開きます。ご来場いただいた皆様にゆつくりと寛いでいただきたいと思っております。会員以外の方、本学の学生の皆さんも大歓迎です。是非お越しください。

日時 / 平成二十四年十一月三日(土)～四日(日)

## お知らせ

●入試説明会	
第1回	6月16日(土)
第2回	6月30日(土)
●オープンキャンパス	
第1回	7月14日(土)
第2回	7月28日(土)
第3回	8月4日(土)
第4回	8月25日(土)
●受験相談会	
第1回	9月15日(土)
第2回	10月13日(土)
第3回	10月20日(土)
第4回	11月24日(土)
第5回	12月1日(土)
第6回	3月下旬(土)

お問い合わせは  
電話03-3692-0238  
入学相談室まで



## 第四回 卒業研究発表会の開催

二月十日に第三回卒業研究発表会が開催され、今回は各研究室から二十八報の研究発表がありました。二年生や三年生の参加も多く見られ、発表会場に座りきれないほどでした。研究の成果を一部ご紹介します。

- 微生物研究質
- 浅漬けナスの日持ちに及ぼすキトサンの効果
- 食品加工研究室
  - 大根の品種別および部位によるイソチオシアネート含有量の比較
- 食品学第一研究室
  - 抹茶と米粉を添加したクッキーに関する研究
- 調理科学研究室
  - パンの歴史
- 栄養学研究室
  - 高タンパク質食におけるカゼイン並びにグルテン量が生体内ミネラルに及ぼす影響
- 食品衛生学研究室
  - ジャガイモ中に含まれるα・ソラニン及びα・チャコニンの蛍光灯照射による影響
- 食品学第二研究室
  - 柑橘類果皮の機能性と利用特性について
- 食品開発研究室
  - 米粉の用途拡大・米粉の種類によるクッキーのテクスチャー変化



## 体 育 祭

平成23年6月3日、体育祭が開催され、今年度も聖栄会は協賛参加しました。当日は心配された天候も無事に回復し、100m走や綱引き、お楽しみレースなど数多くの競技が実施され、歓喜につつまれた体育祭となりました。聖栄会では、優勝したクラスにチームワーク賞を、全員出席した（出席率100%）1クラスに会長賞を贈呈しました。



## 食品学科 海外食事情研修

第4回 フランス 平成23年2月10日～17日

フランスのリヨン、パリを廻りました。リヨン近郊の料理学校で調理実習を行い、郊外の菓子工場を見学しました。パリでは、食材店の視察と歴史文化を堪能しました。

第5回 イタリア 平成24年2月16日～23日

イタリアのローマ、フィレンツェへ。ローマのアグリトゥーリズムではクッキー作りを、フィレンツェでは中央市場で現地の食材視察をし、イタリアの食と文化をたっぷり楽しみました。



## 聖 栄 葛 飾 祭

平成23年11月5・6日の両日、「Health&Beauty～食事から美しく！食事から健康に！～」をテーマに、聖栄葛飾祭が開催されました。今年度は栄養・食品関連企画の他、東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方を応援する企画も出展されました。聖栄会では、今年度もお茶席を設け、多くの卒業生が来られました。また、恒例のチャリティーもちつきにも協賛参加いたしました。



## 食品学科 フィールド研修

1年生を対象に8月8日～10日に長野県伊那地方においてフィールド研修が実施されました。寒天工場見学、野菜収穫体験ではジャガイモをはじめスイカやトマトなど多くの野菜を収穫し、梱包、配送作業も体験しました。郷土料理の五平餅やお焼きの体験学習、蕎麦打ち、ソー



セージ作りなど食を学ぶためのプログラムが用意され、1年生は真剣に取り組んでいました。今回のフィールド研修は、これから食品学科で学ぶ礎となり、クラスの親睦を図ることもできました。

## 管理栄養学科 宿泊研修(日光)

管理栄養学科新入生研修は震災の影響により4月は学内での研修となりました。延期となっていた宿泊研修は日光へと場所を変え、9月24日、25日に実施され、日光東照宮の参拝に始まり、セミナーやそば打ち体験、夜にはキャンプファイヤーなどが実施されました。翌日から始まる後期の授業に向けて、より仲間同士の交流が深まり有意義な時間をともに過ごすことができました。

